GER

GER.Report

Vol.1

一般社団法人 地球環境改革再生機構　東京都豊島区巣鴨 1－10－3　第三川端ビル Email：info@jwstec.co.jp

●中華人民共和国　西安実験・実践センター

2020 年、新型コロナウィルスの問題がまだ後をひく中、農業関係者（地域を指導する中心人物、省政府の役人等）が「西安実験・実践センター」に集まり、電子水素水の応用について 5 月 16 日（土）勉強会が開催されました。

西安実験・実践センターでの勉強会

西安実験・実践センターは全体で 100 ha（100 万㎡）あり、約 100 万本のリンゴ、さくらんぼ、モモ、ナシ、アンズ、アメリカンチェリーの幼木を生産し、中国全土に出荷しています。
今回は、リンゴ、さくらんぼ、アンズについての勉強会と現地視察でした。

リンゴの幼木

センター長　肖先生

全長 200m のあんずとサクランボハウス

サクランボハウスとあんずハウス

グレード 3 のサクランボ

さくらんぼ　グレード別の生産

グレード１（中央政府トップクラス向け）

グレード２（省クラスへの贈り物向け）

グレード３（一般向けだが高額）

上記１から３のグレードに対応した生産を電子水素水を利用して生産してます。

葉っぱも実も非常にキレイで、虫などが一切ないです。

中国・陝西省のさくらんぼコンテストで、肖先生のさくらんぼが優秀賞を受賞しました。
全ての項目の検査で合格し、北京に直送する果物として認定されました。

●中国にはこのような実験・実践センターが全国に 17 カ所あり、中国だけでなく世界中から多くの農業関係者が訪れています。

新型コロナウィルスの影響で、全世界の農業生産は大きく落ち込んでいます。
このような中、同じ面積で通常の 1.2～1.5 倍の生産量を上げる事ができる「電子水素水農法」は世界中から注目されている画期的な農業生産技術です。